

赤磐市赤坂地域の魅力ある
学校づくりに関するアンケート
調査結果報告

令和5年3月
赤磐市教育委員会

I. 調査の概要

1. 調査の目的
2. 調査方法
3. 調査期間
4. アンケート調査の調査項目内容
5. アンケートの配付と回収方法

II. 調査結果

問1. あなた（ご回答者）のお住まいの学区

問2. あなた（ご回答者）の年代

問3. ご家族に、赤坂地域に住む次の方はいますか。
(就学前、小学生、中学生、高校生)

問4. 地域の小学校の存続・統合（3校）について、あなたは関心がありますか。

問5. 赤坂地域の小学校の存続・統合（3校）について、どう思いますか。

問6ーア.

問5で①の「今後も存続すべきである」と回答の方におたずねします。最も近いものを1つ選んでください。

問6ーイ.

問5で①「今後も存続すべきである」、又は③「どちらともいえない」に回答の方におたずねします。次のような条件が整えられた場合のお考えはどうですか。最も近いものを1つ選んでください。

問7ーア

問5で②の「統合すべき」であると回答の方におたずねします。統合を望む主な理由は何ですか。最も近いものを2つ選んでください。

問7ーイ

問5で②の「統合すべき」であると回答の方におたずねします。統合する場合に望むことは何ですか。最も近いものを2つ選んでください

(自由記述)

問8. 「もし今後も3校存続となった場合」、どのようなことを希望されますか。

問9. 「もし3校統合をした場合」どのようなことを希望されますか。また、統合で空く学校がどのように活用されることを望みますか。

参考資料

- ・赤磐市赤坂地域の魅力ある学校づくりに関するアンケート調査用紙
- ・小中一貫教育制度について

I. 調査の概要

1. 調査の目的

赤坂地域の3小学校（石相・軽部・笹岡）の今後を考えるにあたって参考にすべき、地域の多様な実情や意向を明らかにし、今後の魅力ある学校づくりの参考とします。

2. 調査方法

- ・赤坂地域の全世帯に、アンケート調査用紙を封書による郵送で配付・回収を行う。
- ・無記名です。但し、回答者の属性（学区等）については回答を求めています。

3. 調査期間

- ・配付 令和4年12月26日（月）以降
- ・回答 令和5年1月13日（金）まで

4. アンケート調査の調査項目内容

区 分	設 問	目 的	
回答者の属性	問1 居住学区	回答者の属性を把握し、各設問を分析するため。	
	問2 年代		
	問3 子どもの状況		
地域の小学校の存続・統合について	問4 存続・統合への関心	存続・統合に関する意向を把握し、方針検討に活用するため。	
	問5 存続・統合への意向		
地域の小学校を存続・統合を希望する理由	問6-ア 存続を希望する理由		
	問6-イ 存続する場合の条件		
	問7-ア 統合を希望する理由		
	問7-イ 統合する場合の条件		
地域の小学校が存続・統合した場合に希望すること (自由記述)	問8 存続の場合希望すること		存続・統合する場合にどのようなことを希望するのか把握するため。
	問9 統合の場合希望すること		

5. アンケートの配付と回収方法

- ・配付と回収ともに、郵送

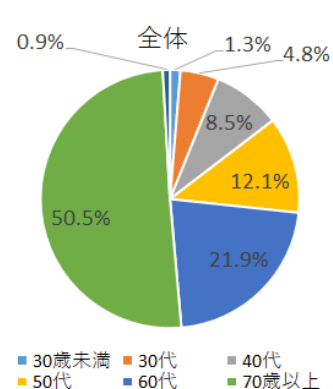
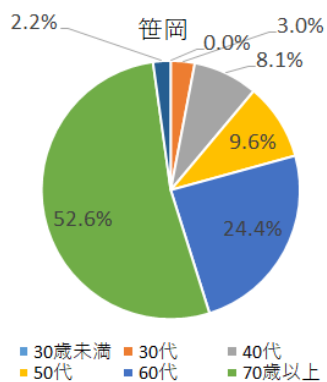
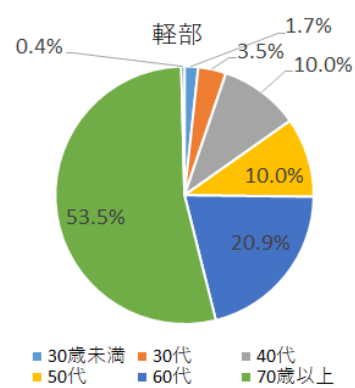
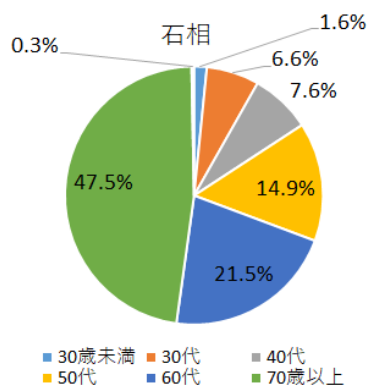
II. 調査結果

【問1】 あなた（ご回答者）のお住まいの学区

対象者	配付数	宛先不明	回答		回収率
			数	割合	
石相学区	864	3	316	46.1%	36.7%
軽部学区	572	2	230	33.5%	40.4%
笹岡学区	322	3	135	19.7%	42.3%
地区不明			4	0.6%	
赤坂地域全世帯	1758	8	685	100%	39.1%

【問2】 あなた（ご回答者）の年代

年齢層	石相学区		軽部学区		笹岡学区		未回答	全体	
30歳未満	5	1.6%	4	1.7%	0	0%	0	9	1.3%
30代	21	6.6%	8	3.5%	4	3.0%	0	33	4.8%
40代	24	7.6%	23	10.0%	11	8.1%	0	58	8.5%
50代	47	14.9%	23	10.0%	13	9.6%	0	83	12.1%
60代	68	21.5%	48	20.9%	33	24.4%	1	150	21.9%
70歳以上	150	47.5%	123	53.5%	71	52.6%	2	346	50.5%
未回答	1	0.3%	1	0.4%	3	2.2%	1	6	0.9%
	316	100.0%	230	100.0%	135	100.0%	4	685	100.0%



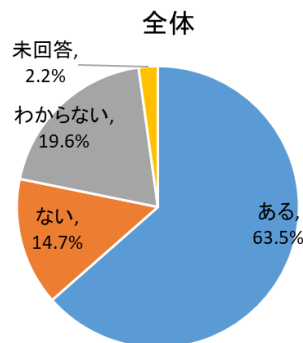
【問3】 ご家族に、赤坂地域に住む次の方はいますか。

	石相学区	軽部学区	笹岡学区	未回答	合計
①いる	90	66	40	2	198
就学前	34	15	12	0	
小学生	48	35	8	1	
中学生	24	21	9	1	
高校生	19	15	14	1	
②いない	226	164	94	1	485
未回答	0	0	1	1	2
合計	316	230	135	4	685

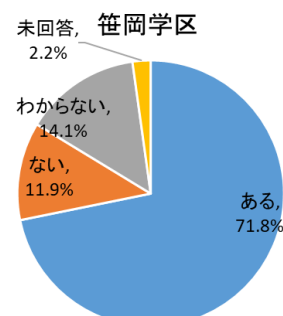
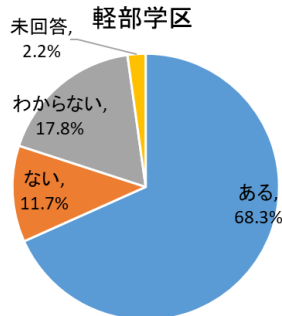
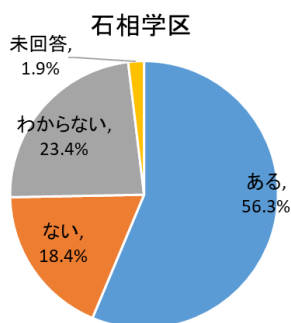
【問4】 地域の小学校の存続・統合（3校）について、あなたは関心がありますか。

地域の小学校の存続・統合について関心があると答えた割合は、全体で約63%であり、おおむね関心が高いと言える。学区によっては約70%前後とかなり関心の高い地区がある。地域住民の大勢が、地域の小学校の今後の在り方について考えていく必要があると強く思っていることがうかがえる。

	全体	
	回答数	割合
ある	435	63.5%
ない	101	14.7%
わからない	134	19.6%
未回答	15	2.2%
合計	685	100.0%



学区	石相学区		軽部学区		笹岡学区		未回答
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	
ある	178	56.3%	157	68.3%	97	71.8%	3
ない	58	18.4%	27	11.7%	16	11.9%	0
わからない	74	23.4%	41	17.8%	19	14.1%	0
未回答	6	1.9%	5	2.2%	3	2.2%	1
合計	316	100.0%	230	100.0%	135	100.0%	4



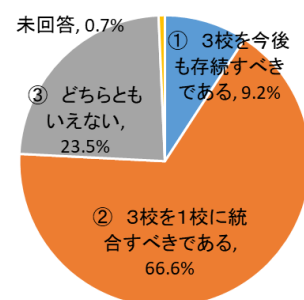
【問5】 赤坂地域の小学校の存続・統合（3校）について、どう思いますか。

赤坂地域の小学校の存続・統合について、「②3校を1校に統合すべきである」を選択された回答者が6割を超え、小学校の統合を望む方が多い。ただし、「③どちらともいえない」を選択された回答者が2割を超え、存続・統合の意志を決めかねている回答者が一定数いる。

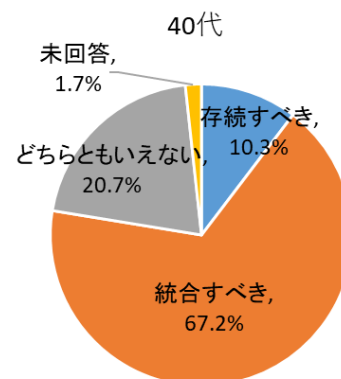
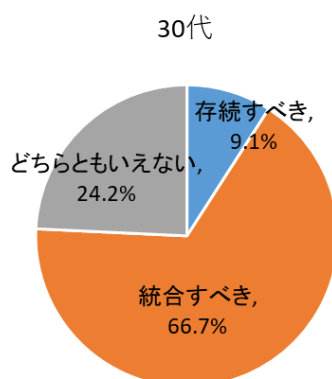
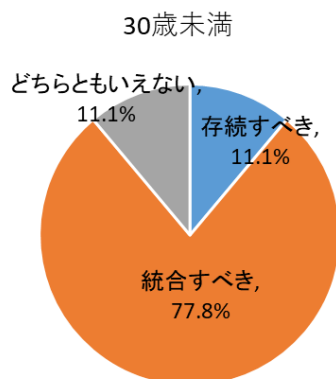
「②3校を1校に統合すべきである」と回答した回答者の割合は、全ての年代において6割を超えている。

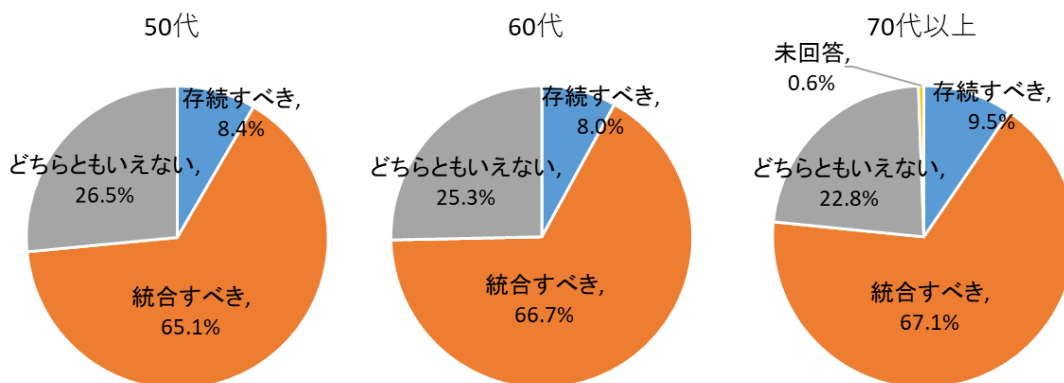
笹岡学区では、「①3校を今後も存続すべきである」を選択された回答者の割合が約14%であり、他の学区よりも多い。

	回答数	割合
① 3校を今後も存続すべきである	63	9.2%
② 3校を1校に統合すべきである	456	66.6%
③ どちらともいえない	161	23.5%
未回答	5	0.7%
合計	685	100.0%

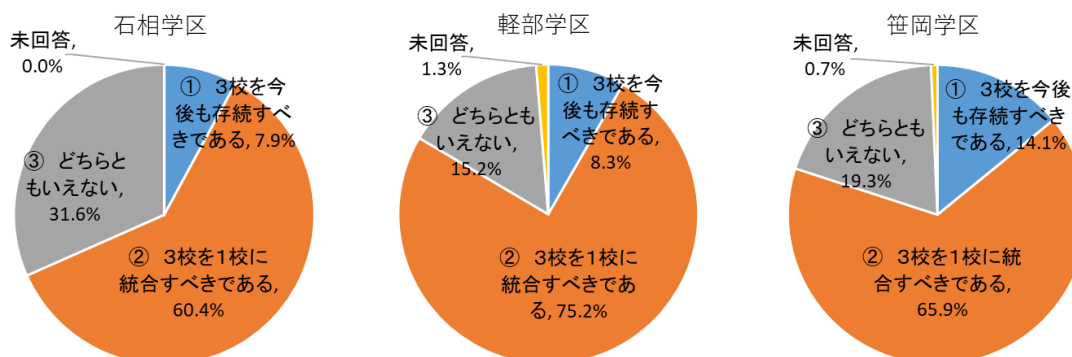


年代	存続すべき		統合すべき		分からない		未回答		合計	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
30歳未満	1	11.1%	7	77.8%	1	11.1%	0	0.0%	9	100.0%
30代	3	9.1%	22	66.7%	8	24.2%	0	0.0%	33	100.0%
40代	6	10.3%	39	67.2%	12	20.7%	1	1.7%	58	100.0%
50代	7	8.4%	54	65.1%	22	26.5%	0	0.0%	83	100.0%
60代	12	8.0%	100	66.7%	38	25.3%	0	0.0%	150	100.0%
70歳以上	33	9.5%	232	67.1%	79	22.8%	2	0.6%	346	100.0%
未回答	1	16.7%	2	33.3%	1	16.7%	2	33.3%	6	100.0%
合計	63		456		161		5		685	





	石相学区		軽部学区		笹岡学区		未回答 回答数
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	
① 3校を今後も存続すべきである	25	7.9%	19	8.3%	19	14.1%	0
② 3校を1校に統合すべきである	191	60.4%	173	75.2%	89	65.9%	3
③ どちらともいえない	100	31.6%	35	15.2%	26	19.3%	0
未回答	0	0.0%	3	1.3%	1	0.7%	1
合計	316	100.0%	230	100.0%	135	100.0%	4

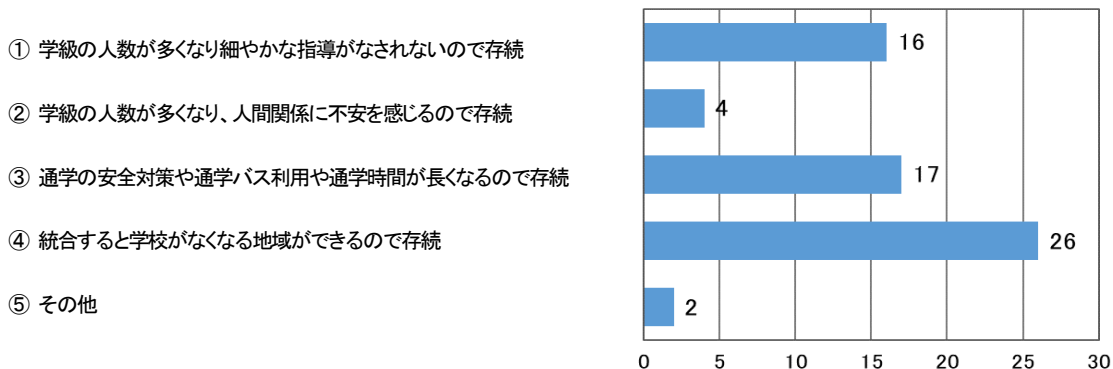


**【問6ーア】 問5で①の「今後も存続すべきである」と回答の方におたずねします。
最も近いものを1つ選んでください。**

赤坂地域の小学校の存続・統合について問5で①「今後も存続すべきである」を選択された回答者の中で、「④統合すると学校がなくなる地域ができるので存続すべき」と答えた割合が40%であった。学校がなくなることで地域がさびれていくのではないかと不安に感じていることがうかがえる。もしも統合された場合には、学校までの通学距離や時間が長くなり、登下校の安全性への不安を感じている方が多い。また、現在少人数で指導を受けているが人数が多くなることによりきめ細やかな指導を受けられなくなるのではと心配している。

	全体	
	回答数	割合
① 学級の人数が多くなり細やかな指導がなされないので存続	16	24.6%
② 学級の人数が多くなり、人間関係に不安を感じるので存続	4	6.2%
③ 通学の安全対策や通学バス利用や通学時間が長くなるので存続	17	26.2%
④ 統合すると学校がなくなる地域ができるので存続	26	40.0%
⑤その他	2	3.1%
合 計	66	100.0%

※問5で①と答えていたが「無回答」の場合や②と答えていたが回答しているものを含む。



⑤その他

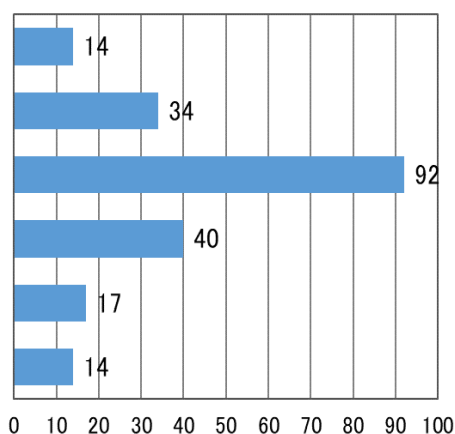
- 保育園から中学校まで1クラス（1つの集団）で過ごすことになり、人間関係が心配。
- 統合ありきでアンケートを進めている。

【問6ーイ】問5で①「今後も存続すべきである」、又は③「どちらともいえない」に回答の方におたずねします。次のような条件が整えられた場合のお考えはどうか。最も近いものを1つ選んでください。

「③通学バス等様々な環境が整備されれば統合を考える」を選択された回答者の割合が4割を超え、登下校や通学における環境整備の課題の克服が必要だと考えられている。「④統合で空く学校が活用され、地域の活性化が期待できれば考える」を選択された回答者の割合が約19%あり、統合により空いた施設を有効に活用し、人が集まり地域のまちづくりや活性化につながる利用を望んでいると考える。また、「②小中一貫教育や義務教育学校を視野に進めるのであれば考える」を選択された回答者の割合が約16%であり、地域の実状にあった教育課程を編成しやすく学校の特色を出しやすい学校を望んでいると考えられる。

	全体	
	回答数	割合
① 学校の改修等で、自分の学区の学校に統合ならば考える	14	6.6%
② 小中一貫教育や義務教育学校を視野に進めるのであれば考える	34	16.1%
③ 通学バス等様々な環境が整備されれば統合を考える	92	43.6%
④ 統合で空く学校が活用され、地域の活性化が期待できれば考える	40	19.0%
⑤ どのような条件が整えられようが統合には反対の立場である	17	8.1%
⑥ その他	14	6.6%
合 計	211	100.0%

- ① 学校の改修等で、自分の学区の学校に統合ならば考える
- ② 小中一貫教育や義務教育学校を視野に進めるのであれば考える
- ③ 通学バス等様々な環境が整備されれば統合を考える
- ④ 統合で空く学校が活用され、地域の活性化が期待できれば考える
- ⑤ どのような条件が整えられようが統合には反対の立場である
- ⑥ その他



⑥その他 ※自由記述の主なもの

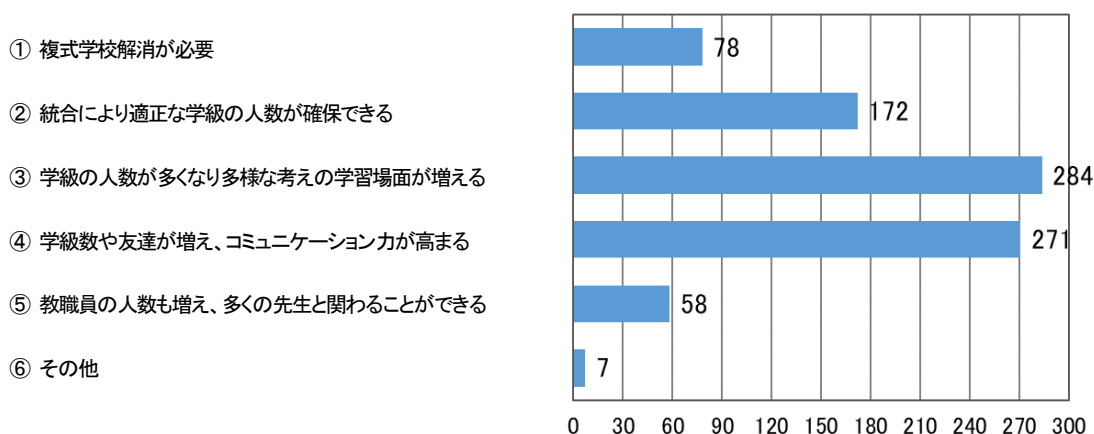
- 他に複式学級を回避する手立てはないのか。統合する場合のデメリットを洗いざらい検討しなとして、それを明示してほしい。対策可能なものも、不可能なものもすべて。
- 地域に学校がなくなるのは寂しい。何とか3校とも残してほしい。
- 長期的視野で検討すべき。3校統合しても、1クラス20人程度では切磋琢磨とまではいかず、学区外への通学希望者の加速が予想される。赤磐市全域で、小学校、中学校の統合を、今、考える時期だと思える。
- ①～④がすべて整わないと統合は無理と考えます。
- 今の保護者の方々の意見を尊重したい。
- 10年前にも3校統合の議論がなされ、白紙になりました。その当時の予想よりも更に児童数の減少が進んでいます。3校で統合するより山陽小へ統合してもらい、もっと多人数で色々な学習をしていった方が子どものためだと考えます。赤坂佐伯地域生徒は高校生以降困り感を訴える生徒が多いと聞いているため、早いうちから自ら働きかけられる教育を望みます。
- 子や親が一から人間関係を築いていかなければいけない。制服や体操服など、またそろえていくので費用が掛かる。
- 統合はせず、それぞれの学校の特色を持ち、その特色を生かした子どものための学校づくりをしてほしい。

- ②③④が同時に実行されるならば前進するのでは。1 つだけ回答するのは難しいのでは。
- 人数が多い方が安心する保護者がいる一方、不登校いじめなど様々な問題も今の社会にはある為、赤磐にも選択の自由があるとよい。例えば笹岡は小規模特例校、軽部石相は合併など。

【問7ーア】問5で②の「統合すべき」として回答の方におたずねします。統合を望む主な理由は何ですか。最も近いものを2つ選んでください。

「統合すべき」と考えている方は、「③学級の人数が多くなり多様な考えの学習場面が増える」「④学級数や友だちが増え、コミュニケーション力が高まる」を選択した回答者の割合がそれぞれ30%を超え、児童数が増えることにより多くの人と触れ合い様々な経験を積めることが子ども達の成長にとって大切だと考えている。

	全体	
	回答数	割合
① 複式学級解消が必要	78	9.0%
② 統合により適正な学級の人数が確保できる	172	19.9%
③ 学級の人数が多くなり多様な考えの学習場面が増える	284	32.6%
④ 学級数や友だちが増え、コミュニケーション力が高まる	271	31.1%
⑤ 教職員の人数も増え、多くの先生と関わることができる	58	6.7%
⑥ その他	7	0.8%
合計	870	100.0%



⑥その他 ※自由記述

- 小中学校の統合をすべき
- 教員の人件費削減、校長をはじめ、先生の絶対数が減らせる。
- こども園で一緒だったお友達とまた一緒になれるので
- 人数が減る中で、いつまでも統合しないわけにはいかない。

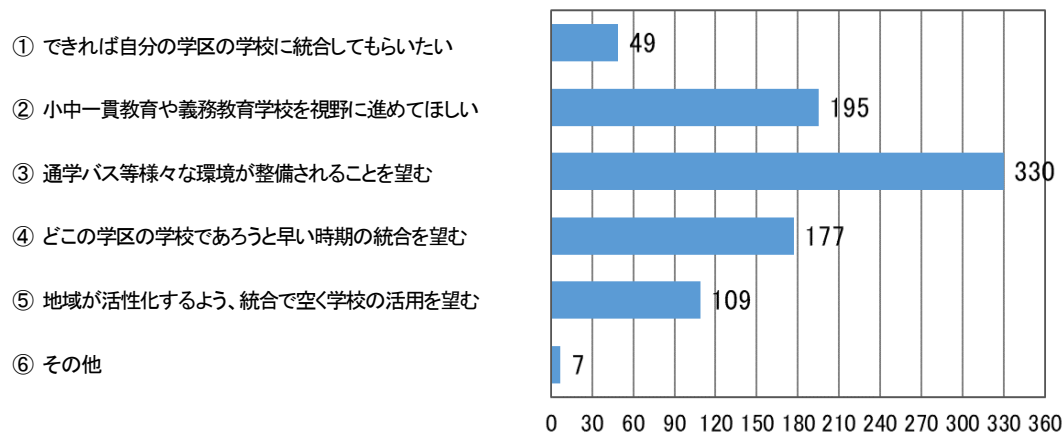
- 統廃合は人口減でやむを得ない。
- 学校運営の経費削減
- 税金の節税

【問7-イ】問5で②の「統合すべき」として回答の方におたずねします。統合する場合に望むことは何ですか。最も近いものを2つ選んでください。

「統合すべき」を選択された回答者が統合する場合の望むこととして、通学バス等の登下校など環境整備を十分に行うことが一番であり、問6-イと同様に小中一貫教育や義務教育学校等の特色ある学校づくりを希望されている。

また、統合により使用しなくなった学校施設の積極的活用により地域活性化されることを望まれている。

	全体	
	回答数	割合
① できれば自分の学区の学校に統合してもらいたい	49	5.7%
② 小中一貫教育や義務教育学校を視野に進めてほしい	195	22.5%
③ 通学バス等様々な環境が整備されることを望む	330	38.1%
④ どの学区の学校であろうと早い時期の統合を望む	177	20.4%
⑤ 地域が活性化するよう、統合で空く学校の活用を望む	109	12.6%
⑥ その他	7	0.8%
合 計	867	100.0%



⑥その他 ※自由記述

- 赤磐市全体での再編も視野に入れてはどうか。
- 適正人数で競争力を身に付けてほしい。
- 中学校の近くにはこども園もあるので、小学校も近くなれば、多年齢の子どもたちが交流しやすくなるので小学校を中学校の近くにしてほしい。

- 現在の中学校で統合する。小中をまとめて、経済的にも。
- 統合場所は3校の中間が望ましい。
- 保育園が一緒に、小学校で別々の学校に分かれて、中学でまた一緒になる。…無意味なような気がする。
- 急いで失敗、不都合なことが起こらないように、慎重に進めていただきたい。
- もっと移住者を呼び込むなど、地域の活性化から考えてほしい。
- 人数だけでなく各学校のメリットデメリットをしっかりと話がしたい。

※自由記述、主な意見

【問8】「もし今後も3校存続となった場合」、どのようなことを希望されますか。

①通学も含めた環境整備

- 登下校時の安全対策。以前のように、校門を出たら家庭の責任では、赤坂地区での子育ては望めない。
- 学校規模に関わらず、同じ内容・同じ量の教育活動があるわけですから、人的配置をしっかりとやってほしい。3校存続となっても、3校児童の交流授業等に積極的に取り組んでほしい。赤坂エリア共同で、子どもたちの成長を支える体制を強化していただきたい。
- 定期的に合同で活動する機会を設け、集団でのメリットをねらいとした取り組みを進めてほしい。子どもたちの成長過程に大切な環境整備の設定を望む。小規模ならでの取り組みも大事にしてほしい。(地域により密着できるとか)
- 施設が老朽化しているようですが、子どもたちが快適に過ごせるようにお金をかけてメンテナンスしてほしい。
- 複式学級の解消、登下校時の保護者の負担軽減(コミュニティバスの活用の検討)、他校との交流。
- 3校内で自分(保護者や児童)が希望する小学校へ通えるようにしてほしいです。その場合は、通学バスなどがあるととても良いと思います。また、赤坂地区以外の赤磐市内の児童を受け入れることができたらよいと思います。

②少人数の良さを生かした教育

- 定期的に合同で活動する機会を設け、集団でのメリットをねらいとした取り組みを進めてほしい。子どもたちの成長過程に大切な環境整備の設定を望む。小規模ならでの取り組みも大事にしてほしい。(地域により密着できるとか)
- 小さい学校だから、先生の行き届いた指導をしてもらえる。という理由で、遠方より子供のために移住して来られた方が何人もおられるのだから、その人たちが失望しないように、一人でも大事に希望を叶えるべきだ。今後も自然が豊かなことと同時に少人数をプラス点として、全国的にアピールして、移住の目玉にするべきだ。
- 少人数のメリットもあり、登下校は徒歩が望ましい。少人数で難しいことは、3校合同の授業をするとよい。赤坂地区の子供が増える施策をするべき。3校統合した場合、中学校までの9年間、人間関係が固定してしまう。
- 少人数の学校だからこそ、子どもは責任感や積極性を身に着け、他には体験できない利点があります。
- 個々の能力、個性が最も生かせるような環境づくり。3校合同でのオリエンテーションや合同授業で、コミュニケーション力、多様性(能力、スキルなど)が生かされるような場を希望。
- 児童、教職員の人数で教育目的が達成されるのではない。地域のマンパワーを活用し、地域全体として全世代を通して相互に成長、発達に努めること。
- 少人数だからと言って、学校生活全般において子供らが不利益を被るようなことだけは避けてほしい。少ないからこそできる環境や指導を大切にしてほしい。3校の関わりをもっと増やしてほしい。

③学力向上

- 教育の充実。体験学習を増やして、外部の力を積極的に交流して、広い世界を知ってほしい。
- 学校規模に関わらず、同じ内容・同じ量の教育活動があるわけですから、人的配置をしっかりとやってほしい。3校存続となっても、3校児童の交流授業等に積極的に取り組んでほしい。赤坂エリア共同で、子どもたちの成長を支える体制を強化していただきたい。
- 少人数制ならではの密な教育。通常校との差別化を明確にし、またその差別化は通常校の環境より教育的に優れているものとする。
- できるだけ他校との交流機会を増やし、多様な集団の中での問題対応能力や強調する力等を育んでほしい。
- 個々の能力、個性が最も生かせるような環境づくり。3校合同でのオリエンテーションや合同授業で、コミュニケーション力、多様性（能力、スキルなど）が生かされるような場を希望。
- 存続となった場合でも、各地区または赤坂学区、もしくは仁美も含めて3年後、5年後、10年後を見据えて、学校の在り方、地域の在り方を継続して話し合える機会を持ってほしいです。今後、デジタル化が進み、また暗記主体の受験から課題解決型の教育に変わるなど、今までの経験で測ることのできない状況になるので、みんなで学びながら考えて街づくりをすることが重要と思います。統合、存続の二者択一のような議論は、思考を止めてしまって前例に沿った結論を出すだけで、問題先送りの結果になってしまわないか疑問が残ります。前回の統合問題の話し合いから、深まった議論をしてこなかったのは我々市民や市議会の責任でもあるので、教育委員会だけの問題であるかのような進め方で早急な結論を求めるのではなく、市民みんなで十分話し合ったうえで決めていければと思います。笹岡ではすでにPTAを中心に動き始めましたが、在校生、現中学生、卒業生で赤磐市を出た若者たちの意見も聞く機会を持った方がよいと思います。できれば、アンケートの結果をもとに、それぞれの回答に対する考えを深め止揚し、再度アンケートを取り直し考えを深められるとよいと思います。当面は、お互いの学校の交流活動を今まで通りにしていただきながら、優秀で研究熱心な講師の先生を送り込んでいただきたいです。先生方は、地域にとって新しい風です。今、笹岡に配置してくださっている講師の先生方、とても熱心で優秀です。迷走する表面的な学力テストの結果だけに一喜一憂しないで、真の知力を大人も子供もつける必要がありますので、地域の資源を最大限に活用しながら独創的な授業づくりに自由に取り組んで、先生方にも幸せになっていただきたいです。それが、生徒への学びのスイッチに確実につながりますので、よろしくお願ひします。

④学校選択

- 複式学級にならないように、子育て世代の誘致に力を入れてほしい。複式学級を望まない家庭には、他の地域の学校を選択できる制度を作してほしい。
- 行きたい学校を選んでいけるようにしてほしい。バスを出してほしい。3校一緒になっても1クラス20人ほどの人数なのに、どうして早く一緒にならないのか不思議。こども園でも一緒に、小学校でバラバラ、中学校になってまた一緒になる。本当に不思議。一人で勉強しても楽しくなさそう。高校で大人数の中で生活することになった時にびっくりしてしまうと思う。早く一緒にしてください。子どものことを一番に考えてください。子どもの1年ってとても大事なので、なるべく早くしてください。
- 小学校選択が自由にできる。(例)石相小ではなく山陽小へ行ける。

- 自由に学校が選べること。(笹岡学区に住んでいても、石相小学校を選べる。等) 及び、その交通手段を確保すること(3校を巡回するバス等を運行する。)を希望します。
- 3校内で自分(保護者や児童)が希望する小学校へ通えるようにしてほしいです。その場合は、通学バスなどがあるととても良いと思います。また、赤坂地区以外の赤磐市内の児童を受け入れることができればよいと思います。
- 岡山市が導入している「特別指定小規模小学校」の制度を取り入れてみるのもあり。また、赤坂地域内での学校選択を可とするなど(当然送迎は保護者の責任で。)はどうか。3校とも、今後急激に児童数が増加していくことはないと思うので、「減らさない」ことを念頭において、それぞれの学校の特色を生かした学校運営、児童の育成を希望したい。3校の児童の交流を活発にしてほしい。1～6年まで年数回は交流する機会を作ることで、つながりあった教育を進めることができると思う。
- 児童や保護者が好む学校(3校のうち)に通えるようにしてほしい。3校のうち選択が可能であれば、3校の制服や体操服を統一していただき、3校内で転校した場合など負担を少なくしてほしい。3校合同で行う行事を多くしてほしい。(運動会、遠足、発表会等)

⑤交流授業

- 3校の子どもたちが交流できるような機会をもっと増やしてほしい。
- それぞれの学校の学年の交流。年に数回、それぞれの学校を訪問して、一緒に給食をしたり、授業もうけたり等すればよい。
- 少しでも多くの友達や先生との交流を通して、人間関係を築いてほしい。
- 週1回または月1回、各小学校で合同授業を行う。運動会も3校合同で。
- インターネットを使い、3校同時に授業を行うなどの新たな取り組み。
- あまりにも少ない人数での教育が続くことで、学力の向上が心配である。定期的に合同学習をするなどの工夫が必要。
- 小学校5～6年で、笹岡・軽部の子と会う機会はあったが、少ないと感じ、中学校に入る時不安もあった。もう少し触れ合いの機会を増やしてみてもどうか。
- 3校合同の校外学習、運動会(中学校の運動場の活用)で交流を深める。
- 少人数では実施困難なスポーツなどの3校統合イベントの定期的開催などの実施。交流の機会を多く持ってほしい。
- 定期的に合同で活動する機会を設け、集団でのメリットをねらいとした取り組みを進めてほしい。子どもたちの成長過程に大切な環境整備の設定を望む。小規模ならではの取り組みも大事にしてほしい。(地域により密着できるとか)
- 3校合同での行事の充実や、オンラインでの交流を増やして欲しい。
- 複式学級の廃止。3校交流を今以上に増やす。
- ITを活用した他校との合同授業。
- 3校での交流の機会を増やす。(学習時には、自分にはない考えを聞くこと、認め合うことが必要とされる社会を経験することが大切であると考える。)
- 赤坂地域に限らず、赤磐市内での地域交流などがあっても良いのではないのでしょうか。人数が少なく、コミュニケーションの低さはとても感じます。もう少し広い目で見ることのできる子どもに育ってくれることを願います。

⑥複式解消

- 教師の人数の問題も大きいですが、現行法令にとらわれず、工夫して、複式学級としない方法を考えてほしい。
- 市費によって複式学級の解消。
- 2・3年が複式の場合、生活と理科・社会に分かれるので、教職員、子どもたちの負担になると思います。授業時間数を確保したうえで、それぞれの学年に丁寧な指導ができるなら、複式学級でも構いませんが、現状、難しいのではないのでしょうか。義務教育なので、きちんと習うべき単元は指導していただきたいです。

⑦人口増加

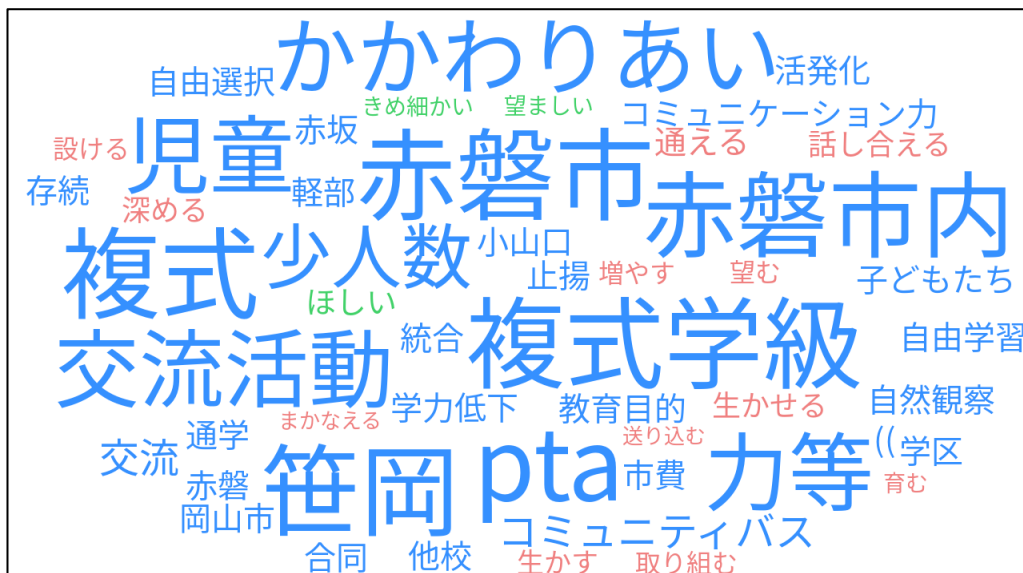
- 複式学級にならないように、子育て世代の誘致に力を入れてほしい。複式学級を望まない家庭には、他の地域の学校を選択できる制度を作してほしい。
- 先生の確保、子供が増える手段を考えてほしい。住宅の値段や子供がいる家族に優遇するなど、人が増える政策を。

⑧学級づくり

- 素晴らしい学校生活を送れるように、子どもが減った今、特にお願いしたい。
- いじめのない学校でいてほしい。
- 人として温かく親密な教育を

※ 問8の自由記述でいただいたご意見で、特によく使われていた単語が大きく表示されています。

(ユーザーローカルテキストマイニングツール (<https://textmining.userlocal.jp/>) による分析)



**【問9】 「もし3校統合をした場合」どのようなことを希望されますか。
また、統合で空く学校がどのように活用されることを望みますか。**

①通学も含めた環境整備

- 石相小学校に統合される場合は、バス通学用の道路整備が必須。
- 交通事故が心配なので、通学路の整備、交通の便、公共交通機関を増やすなどしてほしい。通学が安全にできるよう、バス等の環境整備をしてほしい。
- 赤坂中学校を使って、小中一貫にするのはとても良いと思いました。ただ、町苅田の地区は歩いて通えると思うが、その他の地区は、バスかもしくは歩道を整備するなどして、歩いていくのに危なくない道を作っていただきたいです。
- 通学バス等の整備は、望むのではなく大前提として、統合した場合の運営持続可否を冷静に判断してほしい。(具体的に第3者機関を使い、数値化して。)これが途絶えると、地域の過疎化をより加速してしまう。
- 教職員が増える分、担当が休んだ時にヘルプに入れる教職員を確保してほしい。(現在は、校長や教頭がヘルプに入っているため。)
- 遠方からの通学児童に負担のない通学方法を考えてほしい。通学バスの時には、1台ですべての送迎は無理なように思う。
- クラス担任を2名配置によりこまめな対応をしてもらう。
- 児童の通学について、いわゆる先進国と呼ばれる国が義務教育の児童生徒を子どもだけで通学させているのは日本だけである。現代の自動車社会で安全を保障するためには、通学バス等を整備するのは国の責任である。文科省、各県教委に働きかけをしてもらいたい。
- PTA活動の在り方を見直してほしいです。保護者や先生方の負担が軽くなるよう、そして児童たちのためになるよう、組織の簡略化やスリム化を考えてほしいです。安全な登校手段を確保してほしいです。
- 石相学区に統合するのが望ましい。校舎も新しく、環境も良い。スクールバスも便利だが、登下校時に在来線の宇野バスの利用も考えられる。小学校児童と社会人の乗り合わせも可能になるので、交通の便も増すと思います。
- 自分の地域の学校に統合なら、とか、残った学校の活用が、とか、そんなことはあまり重要ではなく、まず、現生徒の方々が、本当に必要な教育をしっかり受けられる環境を整備することを第一に考えるのが、必要だと思います。

②学力向上

- 多様な学習を、友達との関り、多くの生徒との協調性や個性を通じて広く視野を持てるような教育。
- 3小学校区についての地域学習(歴史、旧跡、特色など)の存続。
- 赤坂中学校に進学するので、学校間の差がなくなり、中学校の学力向上にもつながり、メリットは多いと思います。早急に望みます。
- 教員が増え、児童への指導が今より良くなる。保護者や地域でのコミュニケーションが盛んになる。

③小中一貫教育

- 通学に支障のない環境を作ってほしい。小学校の統合だけでなく、小中一貫教育を強く希望します。
- 統合と同時に赤坂中学校と小中一貫校にする。地域のコミュニケーションをとって、3地区の融合を図ってもらいたい。小学生はスクールバスで通学する。現中学校を一貫校とすれば、建設費も安くて済む。
- 教育の充実。小中一貫校が市内に一つあれば、他地区から入学を受け入れ、人数が増えることを望みます。
- 中学校も空き教室が多く、通学バスなど手段を考えると、小中一貫校にすれば、費用も抑えられる。
- 将来的に小中一貫校を目指すべき（人口減少）であり、統合した学校は現在の赤坂中学校の敷地内に建設するのが理想である。そのメリットは、敷地が広いうえ、英語教育における中学校教員の兼務が可能であること、また現在運行している通学バスを共用できる（中学生のみでは、数名しか乗車していない。）こと等である。しかし、当面は石相小学校にプレハブ校舎を設置して、新校舎（赤坂中学校へ）の建設完成後、移転するのが良いと考える。
- 小中一貫を希望します。勉強面でも（英語とか）スポーツ面でも何かに特化した学校を目指してほしい。赤坂外からも越境入学したくなるような学校を、この際作っていただきたいと思えます。

④早期統合

- とにかく一刻も早く統合し、一桁台の人数の同級生しかない現状をどうにかして下さい。赤坂は今後どんどん人数が増えていく地域ではないと思えます。赤坂こども園に通っていた子供も小学校入学前に桜が丘などへ出て行ってしまった子もいます。統合されれば残ったと言っていました。
- 早い統合を望みます。どの学校も関係ない新しい場所で学校を作ってもらいたい。すぐではなくても、いずれはということであっても良い。
- 3校の子どもたちも保護者も、地域の方もみんなが仲良くなれる環境や場の提供をお願いしたい。学校は地域の統合のシンボルです。
- 統合するにしてもあと3~4年は必要とのことだが、新たな学校を建築するのではなく、（旧赤磐郡内の他の小学校のように）現有の学校で校名も校歌も変更しなければ、もっと早く実現すると思うが。まして、小中一貫教育など時間を要することは考えられない。

⑤地域交流・学校交流

- 旧赤坂町の歴史と文化の保護と存続が最低条件となると思えます。3学区の生い立ちと各学区の特性が存続されることが大切と思えます。今回のアンケートだけでは内容等、不十分です。
- 3校統合記念日を作り、その日にそれぞれの小学校の成り立ち等を振り返り、地区の方も呼んで集いを開いてほしい。
- 公立学校の特徴は地域にあると思えます。これまでの3校が大切にしてきた地域とのつながりや、そこにある課題に向き合う教育がより強化されることを望みます。特に児童養護施設の子どもたちが通う学校としての在り方をしっかりと考えて、システム化していただきたいと思えます。

- 統合しても、各地域とのつながりが持てるような取り組みをしてほしい。(例：学校公開日には、各地区公民館からバスを運行する。学校の近くに公民館などがあれば、その施設の1部屋を交流ルームとし、地域と学校の交流スペースとするのはどうか。図工での制作物を掲示したり、地域の公民館活動グループの活動と協働したり。今まで以上に地域とつながることができるのではないかと期待している。)
- 笹岡学区の児童と地域の方との交流を、統合後も笹岡小学校で定期的に行ってほしい。

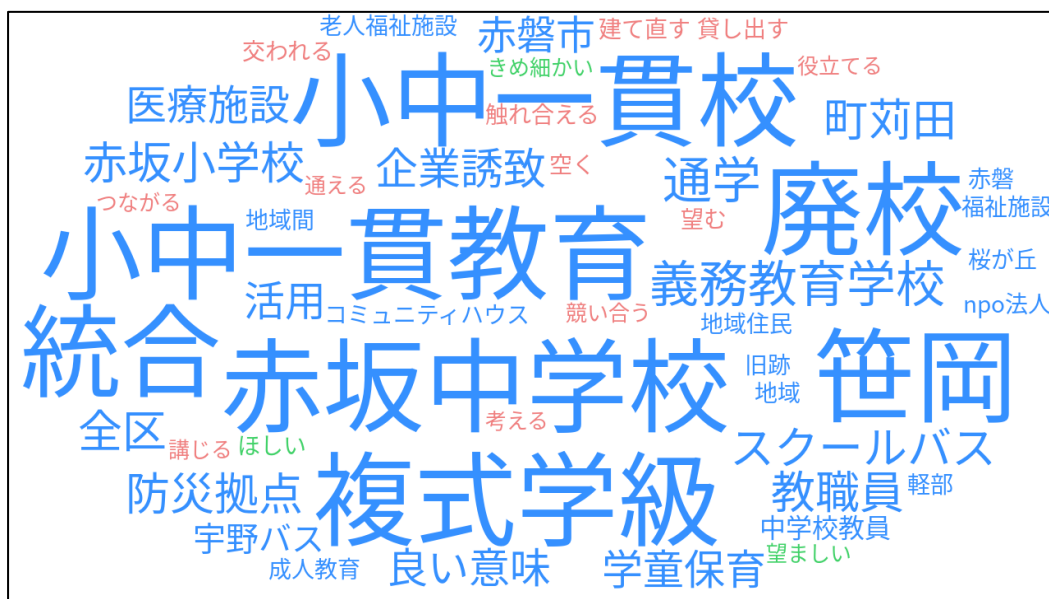
⑥学級づくり

- 生徒数が増えるので、各学年での団体行動が多種にわたって行うことができるようになるので、子どもたちの競争心、思いやり、人に対する気持ち等を養っていけるようになるのではないかと期待している。
- 統合したらそのままのメンバーで赤坂中にあがるので、子ども同士の関係性が難しくなることもあると思う。グループの孤立など心配ですので、他校との関りを入れてあげるといいと思う。
- 小さな学校出身の子は、大きな集団への適応に困難をきたす場合があるので、きめ細かい対応をお願いしたい。
- 小学校6年間+中学校3年間 (+こども園3年間) の長い間、同じクラス (たぶん1クラス) となるであろうから、いじめなどの防止に気を付けてもらいたい。
- 小規模校の児童がいじめにあわないように、先生に子どもたちが仲良く遊べるように目配りを願うようにしてほしい。

⑦魅力ある授業

- 中学校も含め、赤坂学区の地盤沈下は進む一方なので、小中一貫の統合校にして、特色ある学習教育を進めること (英語に特化するなど)
- クラブ活動等、今より多いジャンルの種別を増やし、子どもの選択肢を増やしてあげたい。
- 教育内容を特色のあるものにしてほしい。時代を見据え、これからの世の中をしっかりと生きていける人間の基礎作りをしてほしい。AIではできないことを見つけ生きて行けるように。
- 小中一貫教育義務教育学校として、特色を持った教育活動を展開すべき。
- 小中一貫を希望します。勉強面でも (英語とか) スポーツ面でも何かに特化した学校を目指してほしい。赤坂外からも越境入学したくなるような学校を、この際作っていただきたいと思えます。

※ 問9の自由記述でいただいたご意見で、特によく使われていた単語が大きく表示されています。
 (ユーザーローカルテキストマイニングツール (<https://textmining.userlocal.jp/>) による分析)



【跡地利用について】

①高齢者・福祉、医療

- 空く学校については、福祉の場としての活用を望みます。老人会、リハビリ、コミュニティ、介護等に使えるようにしてほしい。
- 中を少しリフォームして、老人の集いの場に。体育館は、コンサートや映画などに活用。地域の活性化につながるように流用していただきたい。
- 統合で空く小学校は、高齢者福祉所や行き渋りのある子のためのフリースペース的な社会福祉系として活用していただきたい。
- 空いた学校には、福祉関連の施設等に利用して、有意義に活用してほしい。特に石相小は、建て替えの時に将来はそのような活用をするという話があったと思うが。
- すでに石相小学校は今の校舎の建設段階から、廃校になったら老人施設にすると聞いているし、それでよいと思う。小規模多機能型とか。今のデイサービスの現状は、狭い中で選択の幅のない過ごし方をさせられているように感じる。広い建物の中で、自由な活動、休息のできる、楽しい、毎日行きたくなるようなデイ、ショートステイなどの可能な場所になってほしい。
- 地区民の触れ合いの場所として使いたい。高齢者生活支援集団（個別居住生活）。車の移動ができない方が集団で住み、生活に必要なすべてが徒歩範囲内にある施設。支援が容易。
- 校舎を残す場合は、診療所として使ってほしい。

②学童保育

- 空く学校は、学童保育に活用してはどうか。
- 空いた学校をそれぞれの地域で活用できる。学童に活用。ボランティアを利用して、年令に関

係なく利用できることを考える。

- 空いた学校は、子育て支援センターや療育施設、放課後児童クラブなど、子どもたちに関係することに活用してほしい。

③交流の場、施設

- 地域の活性化のために、その地域の人の生涯学習や異世代交流の場となるよう希望する。地域の公民館は古くて狭いので、公民館的な活動ができるといいと思います。
- 空く学校は、小中の課外実習に使えるような特別施設や、地域の方の交流スペース、運動施設等に活用。外部の企業に委託して、未就学児の遊べるキッズスペース（例：明石市駅前施設、藤枝市れんげじすまいホール）を作るなどして、子育て世代の呼び込みを頑張してほしい。
- 市民のイベント、催しの会場として活用。
- 空き家カフェと言ったような誰もが集まることのできる場所に、居場所が増えるように活用してもらいたい。（学習できる部屋、雑談できる部屋等に分ける）このような取り組みに学生がボランティアとして参加できるようにし、地域社会を活性化させてはどうか。
- 空く学校の活用については、子どもも含む地域住民、公益を目的とする団体等が活用できる場として、残してほしいと思います。取り壊されて会社や工場になるのは大きな喪失感が生じます。
- 空く学校は、市民へのレンタルスペース、民間やNPO法人等で愛情と節度を持って使用される場合は、使用許可されることを望みます。
- 運動場等を利用し、新スポーツ、レクリエーション、小サークルで趣味のミニ会場等で、地元の人で考えて、公民館グループのように利用したらどうか。その場に当面してから話し合いしたらどうですか。
- 3校の子どもたちも保護者も、地域の方もみんなが仲良くなれる環境や場の提供をお願いしたい。学校は地域の統合のシンボルです。廃校後の校舎及びコミュニティの活性化をお願いしたい。

④商業施設

- 廃校は、アーティストか職人をお願いして、観光客が来るような場所にする。高齢者施設。廃校跡はつぶして、公園か買い物のできる場所。もっと人が増えそうなものを作ってほしい。
- 地域の人が利用することにこだわらず、個人経営のカフェ等商業施設になるようにする。他の地域から、人を呼ぶ場所にする。
- 廃校跡は、若い人たちをたくさん呼べるようなことに活用。（サバイバルゲームや室内でのアトラクション、ジム等、民間業者を入れても良いかと思います。
- 廃校跡は、宿泊付きアクティビティ施設。
- 人が集まりやすいように、食べ物（弁当等）を売ってほしい。
- 地域の人が運営する店。若い人たちが利用しやすいワーキングスペース

⑤教育・文化施設

- 性別、世代を問わず、広く開かれた場として教育、福祉、文化、スポーツ面で活用する。
- 空く教室の活用は、シニアの活動や子供の習い事に使ってほしい。
- 図書室があり、子供が勉強できる空間があるとよいと思う。子供と高齢者が触れ合える場所が

あればいいと思う。

- 空いた学校は、高等学校を新設してはどうか。赤磐市にはないので。
- 空いた学校は生涯学習の拠点としてほしい。
- 地域の公民館的な場所になってほしい。例：図書を自由に利用できたり、グラウンドで年寄りがグラウンドゴルフをしたり、子どもがドッジボールをしたり、ヨガ教室が行われたり、家庭科室で男の人のための料理教室をしたり等。
- 体験型宿泊学習施設にするとか、たくましく生きる力をつける場。ワークショップ的な子どもたちに考える力をつける場。自習室にあて、自由に勉強できる場。
- 空いた学校では、地域の方と協力して農作物を作り、それを収穫してみんなで調理や野外活動をする場に使ったり、他の何か体験したりする場とか、心のケアの必要な子どもの活動場所にするのはどうでしょうか。

⑥スポーツ

- 誰でもいつでも使える憩いの場。グラウンドは公園のように。サッカーやバスケットやテニスなどが自由にできる。
- 建物と運動場、プールを公共のスポーツクラブにとリフォームし、地域住民が無料で利用できる施設へと変更する。(健康推進事業)
- 統合した場合、運動場を大きくして遊具を増やしてほしい。学校の活用は、大きな公園にしてほしい。
- 体育館を地域、およびスポーツクラブ等の活用に開放していただきたい。(メンテナンスも市が負担、管理もお願い申し上げます。)

⑦更地・公園

- 第三セクター的な物はすべて反対、市の財政負担になる。人口増観光に期待できる活用に賛成、そうでなければ解体処分
- 跡地は公園にしておく。
- 廃校跡は、壊したらよい。
- 廃校跡は、空にしておくとも犯罪を招く恐れがあるので、使用しないのであれば取り壊す。維持管理の費用がかかる。
- 統合で空く学校は、赤坂の人の意見を聞いて進めて行けばいいと考えます。私個人としては、また無駄なお金もかかるので、更地にするのも一つだと思います。

⑧避難場所

- 空き学校の活用は、災害時の活用、地域のコミュニティとしての活用等。
- 廃校跡は、改修の上、災害時の避難場所として活用できる多目的ハウスとして活用する。
- 空きスペース等も活用した社会学習の整備や、クラブ活動、ボランティア活動の効果的な実施。児童、教職員と地域住民とのサロンとしての活用や地域防災拠点、避難所としての整備。

⑨売却・企業誘致

- 廃校跡は、公共施設や地元役に立つ企業の活用。
- 税金が無駄遣いされないように民間で使ってほしい。

- 土地建物を有効利用してくれる企業等を誘致。
- 企業誘致等で、校舎をそのまま残した活用。今後の地域活性化のため、税収につながるように活用。
- 統合で空く校舎が将来の市の財政負担にならないようにすること。上記のことを考慮して、有効利用を図る。(売却も含めて)
- 若い芸術家の人たちの移住または宿泊設備がないので民泊、農泊を考えてみたらどうか。活性化。
- 校舎は各種専門学校などで継続して利用してはどうか。
- 教育関係施設、またはIT関連企業が望ましい。
- 民間企業への貸し出しにより、地域を活性化させる。企業誘致ができれば、若者から元気な老人の働く場となる。
- 統合後の学校跡地については、一校は企業誘致、他校は診療所とコミュニティハウスと青少年宿泊所。

赤磐市赤坂地域の魅力ある学校づくりに関するアンケート調査

赤坂地域の皆様へのお願い

このたび、赤坂地域の3小学校（石相・軽部・笹岡）の今後について、魅力ある学校づくりを進めていくために、標記アンケート調査を行います。

つきましては、年末年始のお忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、できるだけ多くの世帯からご回答をいただきますよう、ご協力をお願いします。

令和4年12月26日 赤磐市教育委員会

はじめに

○ 現状について

赤磐市においては、人口の集中と過疎の両極化が進むなか、児童・生徒数が増加している地域では学校施設・設備の不足、一方で減少している地域の学校では多様な学習形態、集団の確保など、様々な課題が生じています。特に赤坂地域の3小学校では、2校において複式学級の学級編成により教育活動を進めています。【後掲資料参照】

一般的に小規模な小学校にあっては、メリットとして教職員と児童との人間関係が深まりやすく、児童それぞれの特性を把握した個に応じたきめ細かな指導ができることなどがあげられます。その反面、デメリットとして児童同士の意見交換、学び合い、共同作業、体育・音楽等の集団活動が組織しにくいこと、などがあげられます。そのような中、教育効果を高めるための教員配置や教育課程の編成を工夫し、指導体制の充実を図りながら教育活動を展開しています。

○ 教育懇談会について

教育委員会では、これまでに赤坂地域において保護者・区長会・地域の方を対象に現在の学校の様子、複式学級の説明、今後の児童数の推移、教職員の配置などについて、延べ7回開催し、情報提供を行ってきました。懇談会では、子どもの教育環境について、地域住民の方や保護者の意見を十分に尊重し、市としての方針を示して欲しい等のご意見もいただいています。

○ アンケートを利用した意向調査

この度、皆様へのアンケート調査により、赤坂地域の3小学校（石相・軽部・笹岡）の今後を考えるにあたって参考にすべき、地域の多様な実情や意向が明らかになり、魅力ある学校づくりを的確に進めていくことができると考えています。

【資料】3小学校児童数の推移と複式学級の状況《見込み》 (人)

	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
石相小	79	76	79	81	77	76	78
軽部小	43	42	42	37	34	33	31
笹岡小	16	15	10	13	14	12	15
合計	138	133	131	131	125	121	124

◆複式学級とは、2学年を合わせて16人以下になる場合、2学年を1クラスにすること。

- ・令和4年度軽部小学校では5・6年生が、笹岡小学校では2・3年が複式学級
- ・3校が統合すると合計推移は、125人程度の全校児童数となり、1学年20人程度の学級編成が可能となり複式学級は解消される。

アンケート調査の概要

1 目的

赤坂地域の3小学校(石相・軽部・笹岡)の今後を考えるにあたって参考にすべき、地域の多様な実情や意向を明らかにし、今後の魅力ある学校づくりの参考とします。

2 アンケート配布先

- ・赤坂地域全世帯(令和4年12月1日現在)へ封書にて送付いたします。
- ・無記名です。但し、回答者の属性(学区等)については回答を求めています。

3 調査期間

- ・令和4年12月26日(月)～令和5年1月13日(金)

4 回答方法

- ・アンケート回答用紙(無記名)に直接記入(チェック・自由記述)してください。
- ・各世帯に1枚のアンケート回答用紙を送付しています。ご家庭でご相談の上、18歳以上で回答いただける方をお願いします。
- ・回答後、回答用紙を同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに投函してください。

5 スケジュール

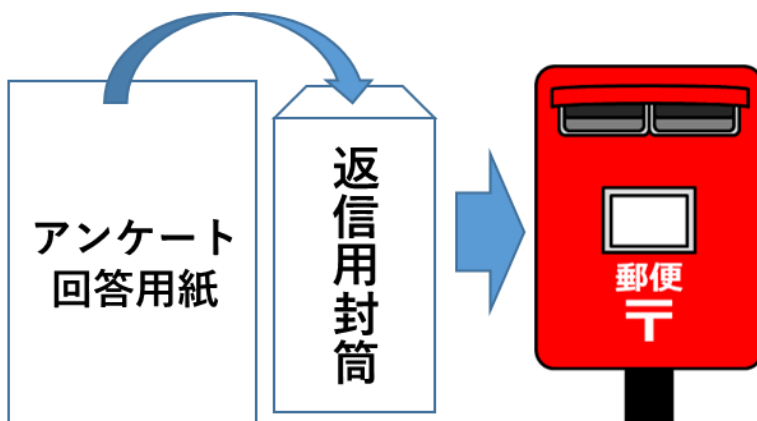
- | | |
|--------------|-----------------|
| ・アンケート調査協力依頼 | 令和4年12月26日(月)以降 |
| ・アンケート回答用紙投函 | 令和5年1月13日(金)まで |
| ・結果の集計・分析 | 令和5年2月中 |
| ・結果の公表 | 令和5年3月末頃 |

6 本アンケート実施担当課【問い合わせ先】

- | | | |
|-----------|-------|------------------|
| ・赤磐市教育委員会 | 学校教育課 | TEL 086-955-0972 |
| | 教育総務課 | TEL 086-955-6807 |

◆本アンケートの回答結果は、本調査以外の目的に利用しません。

できるだけ多くの世帯のご回答をお待ちしています。



令和5年1月13日(金)

までに投函ください

アンケート回答用紙 あてはまる内容の□に☑でお答えください

問1 あなた（ご回答者） のお住まいの学区	問2 あなた（ご回答者） の年代	問3 ご家族に、赤坂地域に住 む次の方はいますか。
① 石相小学区・・・□ ② 軽部小学区・・・□ ③ 笹岡小学区・・・□	① 18～29才・・・□ ② 30～39才・・・□ ③ 40～49才・・・□ ④ 50～59才・・・□ ⑤ 60～69才・・・□ ⑥ 70才以上・・・□	① いる・・・・・・・・□ ・就学前・・・□ ・小学生・・・□ ・中学生・・・□ ・高校生・・・□ ② いない・・・・・・・・□
問4 地域の小学校の存続・統合（3校）について、あなたは関心がありますか。		
① おおいに関心ある・・・・・・・・・・□ ② あまり関心がない・・・・・・・・・・□ ③ わからない、どちらでもない・・・・・・・・・・□		
問5 赤坂地域の小学校の存続・統合（3校）について、どう思いますか。		
① 3校を今後も存続すべきである・・・・・・・・・・□ 問6のア・イへ進む ② 3校を1校に統合すべきである・・・・・・・・・・□ 問7のア・イへ進む ③ どちらともいえない・・・・・・・・・・□ 問6のイへ進む		

問6ーア 問5で①の「今後も存続すべきである」と回答の方におたずねします。 最も近いものを1つ選んでください。
① 学級の人数が多くなり細やかな指導がなされないので存続・・・・・・・・・・□ ② 学級の人数が多くなり、人間関係に不安を感じるので存続・・・・・・・・・・□ ③ 通学の安全対策や通学バス利用や通学時間が長くなるので存続・・・・・・・・・・□ ④ 統合すると学校がなくなる地域ができるので存続・・・・・・・・・・□ ⑤ その他【 】

問6ーイ 問5で①「今後も存続すべきである」、又は③「どちらともいえない」に 回答の方におたずねします。次のような条件が整えられた場合のお考えはど うですか。最も近いものを1つ選んでください。
① 学校の改修等で、自分の学区の学校に統合ならば考える・・・・・・・・・・□ ② 小中一貫教育や義務教育学校を視野に進めるのであれば考える・・・・・・・・・・□ ③ 通学バス等様々な環境が整備されれば統合を考える・・・・・・・・・・□ ④ 統合で空く学校が活用され、地域の活性化が期待できれば考える・・・・・・・・・・□ ⑤ どのような条件が整えられようが統合には反対の立場である・・・・・・・・・・□ ⑥ その他【 】

裏面へ

問7ーア

問5で②の「統合すべき」であると回答の方におたずねします。統合を望む主な理由は何ですか。最も近いものを2つ選んでください。

- ① 複式学級解消が必要なので・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
- ② 統合により適正な学級の人数が確保できるので・・・・・・・・・・・・
- ③ 学級の人数が多くなり多様な考えの学習場面が増えるので・・・・・・・・
- ④ 学級数や友だちが増え、コミュニケーション力が高まるので・・・・・・・・
- ⑤ 教職員の人数も増え、多くの先生と関わることができるので・・・・・・・・
- ⑥ その他【]

問7ーイ

問5で②の「統合すべき」であると回答の方におたずねします。統合する場合に望むことは何ですか。最も近いものを2つ選んでください

- ① できれば自分の学区の学校に統合してもらいたい・・・・・・・・・・・・
- ② 小中一貫教育や義務教育学校を視野に進めてほしい・・・・・・・・・・・・
- ③ 通学バス等様々な環境が整備されることを望む・・・・・・・・・・・・
- ④ どの学区の学校であろうと早い時期の統合を望む・・・・・・・・・・・・
- ⑤ 地域が活性化するよう、統合で空く学校の活用を望む・・・・・・・・・・・・
- ⑥ その他【]

問8

「もし今後も3校存続となった場合」、どのようなことを希望されますか。
※自由記述

問9

「もし3校統合をした場合」どのようなことを希望されますか。また、統合で空く学校がどのように活用されることを望みますか。※自由記述

◆ご協力誠にありがとうございました。同封の封筒にて返送してください。

参考資料

「小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引

(平成28年12月26日 文部科学省)」

小中一貫教育制度について

①義務教育学校

一人の校長の下、一つの教職員組織が置かれ、義務教育9年間の学校教育目標を設定し、9年間の系統性を確保した教育課程を編成・実施する新しい種類の学校です。心身の発達にに応じて、義務教育として行われる普通教育を基礎的なものから一貫して施すことが学校の目的とされています。

②併設型小・中学校

既存の小学校及び中学校の基本的な枠組みは残したまま、義務教育学校に準じた形で9年間の教育目標を設定し、9年間の系統性を確保した教育課程を編成・実施する学校です。中学校区におけるこれまでの小中連携の取組を基盤として、一貫教育にレベルアップさせるイメージです。

③連携型小・中学校

ほとんどの場合、一貫して教育を行おうとする小学校と中学校の設置者は同一であると考えられますが、設置者の異なる小学校と中学校が一貫した教育を行おうとする場合も少数ながら想定されます。

例：市町村の境界をまたぐ形で集落があり、子供の通う小学校と中学校がそれぞれ異なる事務組合立で設置されているケース など

そのような場合に適用される仕組みとして、連携型小・中学校の制度が設けられました。

